



土曜サロンでの「アルゼンチンタンゴ講座」。
ここからサークル活動が始まり、7年続いています。

ました。居心地の良さを感じたのは町民の皆さんが優しく受け入れてくれたからというのが一番大きな理由です。白糠では誰もが気軽に声を掛け、助け合うことが当たり前という空気がありますが、それは今の都会ではまったく感じられなくなっています。隣に誰が住んでいるのかすら知らないということも多いのです。だから、白糠の皆さんの優しさが本当に「有り難い」ものだったのです。

◇白糠町のこれから

「十年ひと昔」と言いますが、白糠町は9年前とは大きく変わっ

ています。2015年には道道道の白糠ICが開通することになり、それに向けてのPR活動も大々的に行いました。2016年には庶路ICと阿寒ICが開通し、これによって車の流れもまた変わっていききました。ストロー現象が起これ、白糠町を通らずに釧路市に向かつてしまう人たちが増えています。しかし、2015年から返礼品制度を開始したふるさと納税人気により、町への関心や支持が高まってきています。これを足掛かりに「わざわざ行きたい町」「住みたい町」にするチャンスだと思っております。そのための仕掛けをたくさん作っていく必要があります。これからは「北海道と言えば白糠」と言われるようになるというなと思います。

◇最後に・・・

残念ながら私は町での仕事を離れることになりましたが、今後も違った形で白糠町を応援していけたらと思っています。何か協力できることがあればいつでもお声かけください。白糠町がいつまでも元気な町であることを願っています。これまで本当にお世話になりました。ありがとうございます。

ALT(外国語指導助手) 徐玉潔さん退任挨拶



1年という短い期間でしたが、仕事はもちろんのこと、私生活においても貴重なかけがえのない時間を過ごさせていただきました。着任当初は不安でいっぱいでしたが、教育委員会の皆さんをはじめ、各学校の先生方のおかげで、だんだんと慣れていくことができました。ご指導をいただいた皆さんとお世話になった皆さんに心より感謝いたします。

また、学校以外でも、さまざまなイベントに参加させていただき、町民の皆さんと交流することができました。厳島神社例大祭での巫女の経験や日本舞踊を習ったことは一生忘れることはありません。いつも温かくしてくださる町民皆さんのおかげで、とても幸せで充実した毎日をお過ごすることができました。

私にとって白糠町は第2のふるさとです。言葉という国境を越えた人とのつながりや世界的視野で物事を見つめる目、何事にも諦めずに挑戦しようとする強い意志など、数えきれないほどの大切なことを白糠町は教えてくれました。

私は4月に帰国し、新たな道に挑戦します。そして、これからも中国と日本の交流に引き続き携わっていく予定です。そのときには、白糠町のすばらしさをできる限り、多くの方々に伝えていきたいと思っています。

最後に、町民皆様のご健勝とご多幸、白糠町の益々のご発展、子どもたちの心と体の穏やかな成長を心よりお祈り申し上げます。1年間本当にありがとうございました。